

## 第22回とさ・子ども主体の学校生活づくりを考える会（通称りぐる会）

テーマ ～豊かに生きよう～今を 明日を 将来を～ 報告

令和6年8月5日（月）に開催されました「第22回りぐる会」の報告をします。

会場は、まるで結婚式場と見間違ふかのような、丸テーブルに、テーブルクロス、マイク等々。少し場違いのようで・・・膝つき合わせて話し合いたいがなあ・・・でした。

- 1 出席者は33名で、内訳は特別支援学校 13名、特別支援学級 10名、通常の学級 1名、教育研究所 2名、市職員 1名、助言・事務局合わせて6名でした。
- 2 話題提供は、「6年目を迎えて思うこと」と題して、高知市立朝倉第二小学校教諭 坂下あきさん。知的障害学級担任になった初年度は、どこから手を付けたらいいかわからないのに、同じ学校に聞ける人がいない。そんな時高知市SVの訪問があり、一緒に授業づくりはありがたかった。5年目の春、異動があったが、4年間培った実践を生かし、それを繰り返したり、膨らましたり、地域に応じた新しい実践に取り組んだりする中で、子ども同士、子どもたちと担任のつながりが深まった実践に、ともに歩む担任の姿が見えました。
- 3 一言・二言コーナーでは、中坪晃一先生は本会発足当時作成した「りぐる会八策」について、太田俊己先生は知的障害教育の「しくみ」を生かし、五つの視点等話されました。お二人ともがご自身の万歩計の紹介をしてくださったのには、笑ってしまいました。
- 4 KUMIちゃんコーナーでは、中橋 紅美弁護士によるミニ講座「LGBTQ+ について」でした。「異質なものは排除する島国」「社会的課題であり、新しいものではない」「マイノリティではなく、保障される手段がなされていない」。同性婚についても憲法第24条に絡めて言及されました。
- 5 実践の紙面紹介は、一宮小学校の谷雄二さんの「遊び单元 あんぱんワールド」と城西中学校の下元美樹さんの「生活单元学習・作業学習の年間計画」でした。
- 6 「懇親会」では、高倉誠一先生の乾杯の音頭。それぞれのテーブルで話の輪ができ、ベテランも初心者も、違った職種の方も交え、仲間がいることを実感。普段交流の少ない特別支援学級担任と特別支援学校教員が情報交換する場面も。しゃべって、食べて、飲んで、元気な時間でした。大御所の先生方も、高知の勢いに感心してくださっていました!?

もちろん勢いは止まらず、二次会へ。塩タタキを食べながら、口から泡を飛ばし、・・・気がつけば翌日になっていました。

次回は令和7年2月の予定です。



令和6年8月 「りぐる会」事務局

- りぐる会 八策
- 一 子ども主体
  - 二 続ける
  - 三 実践をベースに高め合う
  - 四 柔軟な対応
  - 五 仲間を増やす
  - 六 あせらず じわじわと
  - 七 功を求めず
  - 八 本音で語ろう